



Hong Kong Representative Office

## 香港海外進出最前線



設計・総務Grのみなさま(右から陳総経理助理、劉副総経理、興枅社長兼総経理)

海外に進出されている福岡銀行行橋支店のお取引先企業グループのご紹介です。



# 株式会社シンコウ製作所

(現地法人: 広州伸興自動化設備有限公司)

社長兼総経理 興枅智明

はじめに

株式会社シンコウ製作所は、先代(現会長: 興枅富三男)が1977年に金属加工品商社として北九州市二島に創業したのが始まりで、今年で設立後30年を迎えた生産設備、設備部品を提供する会社です。もともとは製鉄設備関連向け機械加工品を製作していましたが、時代とともに事業領域を広げられ、現在では自動車・航空業界、液晶半導体業界、工作機械関連業界などに活躍の場を広げられています。

また『信頼されるパートナーであるために我々は挑戦します。』をスローガンに、お客様の声に耳を傾けてきた結果、設計から製作・組立てまでを一貫製造できる体制の確立、多品種・小ロットへの対応を実現されています。

今回は、多くの自動車関連産業が集積している中国広東省広州市に昨年進出されました現地法人 広州伸興自動化設備有限公司の興枅総経理(株式会社シンコウ製作所代表取締役社長兼務)に進出から現在、今後の展望について伺いました。

### 1 海外進出のキッカケ

当社が得意とする自動車業界に於ける国内自動車生産・販売のマーケット状況は近年縮小傾向にあり、また一時期の円高の影響や低い労働コストを求め、販売地に近い国・地域に生産拠点を移転が進んでいました。円高が是正された現在、一部の分野では国内回帰の動きが見られるものの、自動車メーカーをトップとする自動車業界では現地調達率を高めるため、生産地でのサプライチェーンの確立が進み、



他産業に比べ国内回帰の動きは限定的な状況でした。この様な環境下、当社は常期に為替相場に影響を受けにくい経営、お客様の声が届きやすいよう地産地消の経営を模索されていたところ、日本で既に取引のある設計メーカー様が中国広州市に進出する計画があり、併せて現地でもモノを造りたいとの要望を聞き、本格的に海外進出を検討されたことが始まりでした。

いざ中国に足を運び感じたことは、「自動車への購買力」の高さでした。新聞などメディアを通じて中国の自動車販売台数が世界一位になっていることは知っていましたが、休日のカーディーラーの店舗内には人だかりができており、特に若い世代が目立っていました。日本ではあまり見られない光景に感動を覚えました。また進出した中国広州市は中国国内でも自動車の一大生産地であり、九州と同様に自動車メーカーを中心にTier 1メーカー、部品メーカー、中小の製造メーカーといった日系サプライチェーンが展開されており、たとえ後発であっても日本で培ったノウハウ、特に「省力化技術、製造ラインの機械化」を提供すればメーカー各社の役に立てると考え、進出を決意しました。

## 2 進出前後の苦勞

当社は海外進出前にも商流では海外企業との取引は既にありましたが、商取引と海外進出では大きな違いがありました。商取引では製品を外国企業に輸出し、売上代金を外国送金等で受取るという言わば輸出地のことを多く知る必要はありませんでしたが、海外進出となれば進出国ごとに違う商習慣・関税など多

くのことを知る必要があります。日本(親会社含む)から輸入する原材料、工作機械等を含め多大な労力が必要となりました。また特に中国では金融取引が制限されていたため、親会社との資金の融通さえも限定を受け、中国国内の自社金融口座からの資金の出し入れさえも苦勞させられました。この様な様々な問題に対して各所専門家の意見を聞くため、幾度となく日本、中国を往復しました。その際に心強

かったことは日本の文化、中国の文化両面を知り、会社のことを第一に考える日本で雇用していた中国人従業員の存在でした。進出後も三國間貿易時の売掛金の回収、環境規制に対応する為のライセンス取得など常に変化する中国行政規制などに日々頭を悩ませ、格闘しています。

## 3 “質”へのこだわり

「郷に入れば郷に従え」という言葉があるように、商慣習には従い、中国文化には馴染む必要がありますが、当社が提供する製品・サービスへの「質」は譲れません。中途半端な製品・サービスを提供することにより、親会社の評判が下がることもさることながら、中国政府が進めている『中国製造2025』ではないですが製造業の高度化、省力化に繋がらないからです。中国系企業(以下、中資系)も人件費の高騰、独立・起業志向の高い国民性から工業製品の品質の維持には苦慮しています。当社が提供する生産現場のオートメーション化、省力化技術のソリューションを提供することは、均一した高品質の製品が製造できる生産ラインを可能とすることから日系、中資系企業問わずますます存在感

が高まっていくものと思います。その為、日々「品質、品質」と口煩く言っています。

## 4 今後の展開

中国のGDP(現在は2位)は2020年以降に世界一の経済大国の米国に迫るものと考えられています。経済の成長とともに中国人の購買力も高まり、中国国内で自動車を生産する生産・販売台数も増加することを予想していますが、当社としては急激な拡大路線に舵を切るつもりはなく、地道且つ確実に、出来る範囲の事を丁寧に対応していきたい。またどうしても輸入品に頼ると価格が高くなる為、地消費率も現在の50%から80%まで引き上げたいと思っています。

中国内では既に日系自動車メーカーの系列取引体制を超えたビジネスが展開されていること、中国政府が自動車メーカーに環境対応車の生産を求めていること、高い欧州基準の環境規制が適用されていることなど、中国から学ぶことも多く、日本の営業、技術革新に繋げていきたいと考えています。

## 最後に

当社の中国進出は決して早いものではありませんが、現在、日本本社と現地法人の間で人材を相互に交流させており、日本の考え方、技術の伝承、中国人と接する機会を通して国際派人材の育成に注力されています。この人材育成こそが、モノづくり大国「日本の礎だ」と思いました。また当社は外国人実習生の受け入れも行っており、帰国後の彼らのネットワークを活

かしたビジネス展開も視野に入れておられ、今後の海外ビジネスの広がりを感ぜました。最後に興和社長へのインタビューを通じて、物事に対する現状認識、情報収集、そしてそれらに対する布石・準備しておくことの重要さを感じさせられました。(現・グローバルソリューション部)

石本 恒義



▲開所式での集合写真



▲日本と同様の大型加工機を導入

### PROFILE

現地法人：広州伸興自動化設備有限公司  
住所：中国広東省広州市花都区  
汽車産業園赤坭園區3路7號廠房  
TEL：+86-20-3772-4513

親会社：株式会社シンコウ製作所  
住所：福岡県行橋市大字下崎423番地  
TEL：0930-22-3068  
FAX：0930-22-3329